

平成27年 4月9日

釜石市議会議長 海老原 正人 様

会派名 公明党

代表者 山崎長栄

報告者 細田孝子



会派視察調査報告書

当会派所属議員による視察調査を下記の通り実施しましたので報告致します。

1. 観察項目 ; 「弘前マルシェについて、青空市場について」

日 時 ; 平成27年3月27日（金） 14：00～16：00

相手方 ; 青森県弘前市議会事務局 参事 戸沢 春次

青森県弘前市議会事務局 主査 鳴海 雅剛

青森県弘前市農業振興係 係長 木村 淳子

青森県弘前市商業振興係 係長 山内 恒

場 所 ; 弘前市議会会議室

研修内容

* 弘前市は、農業を基幹産業とし、日本一の生産量を誇るリンゴを始め、コメや「嶽きみ」など魅力的な農産物が豊富であり、各地で朝市や農産物の直売が行われていた。市は更に生産者と消費者の相互理解を深めると同時に、地産地消の推進を図る為、21・22年度に「軽トラ de 夕市」を3回にわたり開催する。この取り組みが生産者、消費者それぞれに好評を博して、翌年の「弘前マルシェ事業」の事業化に繋げられている。当事業は25年度まで実施され、一部は26年度以降も引き続き実施されている。青空市場は、中心市街地の活性化のため、中心市街地活性化協議会が行う「えきどてプロムナード」を活用し、地元生産物を始めとする食料品や雑貨など幅広く販売する「市」開催事業を支援。中心市街地の賑わいの創出と集客力の向上を図っている。

所 感

「弘前マルシェ事業」は市の支援事業として3年にわたり取り組んだが、支援の打ち切りと同時に自立しての事業の継続は困難となった。しかし、此の事業の展開は生産者の意識を変え、インターネット産直市場の運営や、CSA（地域支援農業）の実施など、新たな農産物の販路の開拓に取り組むきっかけとなつた。



2. 視察項目；「ヒロロスクエア」視察

日 時 ; 平成27年3月28日(土) 9:00~10:30
相手方 ; 青森県弘前市市民課 課長 松岡 美也子
場 所 ; ヒロロスクエア

研修内容

* 閉鎖された「ダイエー」の3階を市が借り受け、行政エリア、子育てエリア、交流エリア、健康エリアとして活用をされている。また、他のフロアもスーパー、雑貨、衣料品の販売店として利用され、駅前ショッピングモール&公共施設として市民に親しまれている。特に行政エリアは市の窓口業務のみならず、パスポートの申請業務なども行い、年末年始を除き業務を行っており、市民に好評だとの事である。

所 感

託児所は1時間5百円で3時間まで預ける事が可能。子育てエリアの中に設置をされていて非常に利用率が高い。街の中心部にあり、日曜・祭日も利用が出来る事が大きな魅力となっている。また、行政窓口に於ける市民の利用者は本庁以上に多いと伺ったが、窓口が「こぎん刺し」で飾られているなど、津軽地方の伝統工芸が来訪者の心を和ませてくれている。役所に於いての諸手続きや交流エリア、子育て支援も基本的には利用する市民の利便性や心豊かな生活支援を考慮した施策と考えられるが、市民に視点を向けた行政運営の在り方に学ぶべきことが多々あった。

3. 視察項目；「八戸港」・「みろく横丁」視察

日 時 ; 平成27年3月28日(土) 14:30~16:30

所 感

震災後の瓦礫処理場跡地から検出された汚染土が、釜石港から八戸港へコンテナ輸送され八戸セメント㈱で処理、一部が再利用されているが、荷揚げが行われているコンテナヤード埠頭などを確認する。八戸セメント㈱を訪問出来なかった事は残念である。

東北新幹線八戸開通を契機に、「八戸屋台村みろく横丁」が作られる。その狙いは、中心市街地に都市型観光の新たなスポットをつくる事にあった。コンセプトとして、地域循環型リサイクルシステム、食文化の環境プロジェクトを参考に「環境対応型屋台村」を目指した。現在26店舗が軒を連ね、八戸港に水

揚げされる魚介類や地元農産物を使った郷土料理を提供し、足を運ぶ観光客をはじめ、多くの市民に親しまれている。みろく横丁は昭和の時代を思い起こす様なレトロな雰囲気に包まれていて、震災以前の釜石呑ん兵衛横丁を彷彿する匂いと人情が息づいていた。

4. 観察項目；「八食センター」観察

日 時 ; 平成27年3月29日(日) 10:00~11:00

所 感

八食センターは、鮮魚や海産物だけではなく、野菜や果物、土産品のお菓子や雑貨など幅広い品数を揃えている他、食堂やおやつコーナー、魚介を七輪で焼いて食べられるスペースなども設けられている。集客の対策としては、ステージイベントや縁日の開催、プロの料理人や職人が調理のコツを教える料理道場の開催が行われている。また、立地場所が駅から離れているため、100円バスや200円バスの運行もあり、観光客や市民の足の確保を図っていた。課題としては新幹線が北海道まで開通した場合、八戸駅で下車して貰うための対策が急がれていますと伺う。八食センターで販売されている海産物の加工商品には、釜石市内では見られない物もあった。今後、橋野鉄鉱山の世界遺産登録など、釜石市を訪れる観光客の増加が見込まれるが、一層の土産品や特産品の開発が必要ではないのか。

以 上